



THE JAPAN INTERIOR DESIGNERS' ASSOCIATION

66年4月発行

— 23号 —

- ① 中国視察団年鑑内容など
次年度事業 理事会で決まる
- ② 徹底した部品組立方式
Y S 1 1 内装設計の川崎浩氏の報告
12月東京支部月例会
- ③ 原宿・新事務所で新年会
— 東京支部 —
- ④ デザイン課改組に反対し
通産大臣に要望書提出
- ⑤ デザイン団体協議会を
J I D A クラフト室内でよび掛ける
- ⑥ I C S I D の会議報告
11月東京支部例会
- ⑦ 新入会員御紹介
- ⑧ 会員の近況
編集後記

日本室内設計家協会
日本室内設計家協会

中国視察団、年鑑の内容など

┌ 次年度事業理事会で決まる ─┐

日 時 = 3月5日、6日

場 所 = 京都・東山荘（公務員宿舎）

出席者 = 理事長・狩野雄一 理事・岩瀬要三、山口勇次郎、
中村圭介、渡辺 優、竹内 篤、榎田 均、
白石勝彦（以上東京）、藤川宏允、飯田俊彦、
渡辺敏雄、森岡 正（以上大阪）
委員・野口寿郎、坂田種男（以上東京）、
野口 茂（大阪）

本年度第2回理事会は3月5日、6日の両日 京都・東山荘（公務員宿舎）で開かれ、1年間の運動の経過を反省するとともに、次年度の本部事業などを決定致しました。

A 事業経過報告

- イ、デザイン団体協議会（仮称）の結成について＝J I D A・クラフトマン協会との話し合いが具体化し、近く建築家協会・日宣美などによびかけることになった。（東京）
- ロ、年鑑発行について＝美術出版社と大体の話し合いがついて、別記のように本の内容をまとめたが、大下社長の日航機による事故死により、話はふり出しにもどつた。それがため発行がさらに遅れるような事態になったが、協会の重点事業であるので、彰国社、鹿島建設出版部などとも話し合い、具体化を計りたい。（東京）
- ハ、著作権の確立について＝応用美術に対する著作権は、なんらかの形で拡大を計る。文部省と工業所有権で保護すれば足りるという通産省と意見が対立し、下図・設計図に対する実施権があるという点は確認されるが、人格権については討議されていない。（東京）
- ニ、標準仕様書＝東京支部では委員の選定を終り分担を確認中で、これから内容に入る。（東京）
- ホ、デコラティブアートへの作品送付について＝今年度は時間がなく便宜的に年鑑作品より選定して送つたが、次年度からは直接連絡のルートができたので、会員より集め、デザイン、類似などの疑問さえなければ原則的に全部送るようにする。（東京）

へ、万国博への協力＝関西デザイナー団体連絡協議会の一員として、展覧会の企画などに積極的に参加している。（大阪）

ト、大阪では月例会を定期的に開催し、学生との懇談会など組織的にも成功している。４月総会、５月万国博問題、６月デンマーク展見学、７月川島織物工場見学、８月ＹＳ１１のデザインについて、９月デザイン学生との懇談会（学生７６名出席）、１１月ロイヤルホテル見学と川崎氏の帰朝報告、１２月Ｎ．Ｄ．Ｋ（服装デザイン団体）との懇談会、１２月忘年会等が開かれた。

東京では、４月栄久庵氏の講演会「道具と空間」、５月総会、６月天童展見学、９月Ｉ&Ｉの団地実体調査報告、１１月ＩＣＳＩＤの報告会、１２月ＹＳ１１のデザインについて、２月新年会と前年に比べ対外活動は活発になったが、対内的には不活発である点が反省された。

九州では、５月グッドデザイン展見学、８月総会、１１月総会、役員改選、１２月ハーモンミラー展・ツタンカーメン展見学会などが開催された。尚、支部の強化を計る意味で福岡デザイナーグループと合同会議を開き、取りあえず準会員として全員入会してもらい、その後手続きを経て正会員になつてもらう方針が承認された。

B １２月中間決算報告及び配布金額の決定

各支部から１２月末（但し九州支部は３月末）の決算報告がなされ、東京支部の場合、本部事務所設立などのため什器購入などにより未払金もあり、財政が困難であるが、会費納入の促進及び賛助会員の増加を計つてこれをのりきることとして、配布金額としては賛助会費収入額の $\frac{1}{2}$ ・２３万円を次のように配分することを決定した。

☆ 中間収支決算（本部会計のみ）

	東京支部保管分	大阪支部保管分	九州支部保管分	合 計
前 年 度 繰 越	422,020	57,221	0	479,241
本 年 度 収 入	440,410	76,600	18,600	535,610
“ 支 出	590,557	6,500	0	597,057
１２ 月 末 残 金	271,873	127,321	18,600	417,794

但し、東京支部保管分残金の中には事務所敷金１５万円を含み、九州支部は３月３日、東京大阪支部は１２月末現在である。

☆ 配 布 金 額

次の金額を本部会計より支部会計に配布する。但し、東京・大阪両支部はそれぞれ保管す

る本部費で清算し、九州支部は東京支部保管金より未納入会費と清算する。

区 分	東京支部	大阪支部	九州支部	計
正 会 員 数	98 名	44 名	7 名	149 名
金 額	138,000 円	69,000 円	23,000 円	230,000 円

- C 次年度本部事業計画及び予算についてはほとんど編集の終つた年鑑の実現に重点を置き、新しい事業として中国視察団の派遣を決定した。会務の活発化にともない財政的困難がともなうが、未収入会費の完納、賛助会員の増加により運営にあたることにした。

尚、ジエトロの移転にともないジエトロ内に事務所が設けられるようなら、事務所内に移転することも決まりました。

- D 新入会員については次の方々が承認され、入会することになりました。

正会員 島田重義（東京）、玉置勇一（東京）、並川拓史（大阪）

準会員 高橋岩夫（東京）

移 籍 山本敏郎（41年4月より大阪支部→東京支部へ）

昭和41年度本部事業計画

☆ 基 本 方 針

日本のインテリアの方向性を確立し、対内的には会員の拡大強化をはかり合せて関連団体との連繫を強化する。

☆ 具 体 方 針

1. 年鑑の発行

従来の委員の経験を生かし、必ずしも「年鑑」にこだわらず広く会員の作品を中心とする出版物として発刊する。（たとえば、「日本のインテリア」「日本のリビングアート」等）

2. 標準仕様書の作成

東京支部で家具、大阪支部で敷物・カーテン内装を分担し、実際の業務の必要に応じ、工事の程度による区分のある仕様書とする。又材料の分類、用語の整理等も考慮する。これらの事業を通し会員の技術的研究も併せ行う。

3. 中国視察団の派遣

東京支部より中国建築学会と連絡をとって視察団派遣の準備をしてきたが、協会の事業としてJIDAとも協力し、視察団を派遣する。

4. 法人格の資格申請について準備のため研究する。

年鑑内容案（年鑑委員に一任）

① 序文（刊行の辞）……………理 事 長	4 P
② 総 論……………豊 口 克 平	8 P
③ インテリアの動向……………長 大 作	2 P
④ 図版（インテリア）……………約 35枚	24 P
⑤ 家具の動向……………榎 田 均	2 P
⑥ 図版（家具）……………約 100枚	64 P
⑦ 照明テキスタイル動向……………島 崎 信	2 P
⑧ 図版（照明・織物ほか）約35枚	16 P
⑨ 日本のインテリア100年（年表写真入）	12 P
⑩ 64'65'のインテリア総覧	8 P
⑪ 家具業界の現状（図表入）	4 P
⑫ 関係学校・試験所一覧	4 P
⑬ 友好団体リスト	2 P
⑭ 海外学校研究機関一覧	4 P
⑮ 海外交友団体リスト	4 P
⑯ J I D 会 員 名 簿	8 P
⑰ J I D 賛助会員名簿（内容紹介）	8 P
⑱ 編 集 後 記	2 P
⑲ 広 告	32 P
合 計	210 P

昭和 4 1 年度本部会計予算案

☆ 収 入 の 部

科 目	金 額	摘 要
前期繰越金	未 定	年度末 現金 6 万位、敷金 1 5 万、その他什器の予定
会 費	正 会 員	360,000 東京 9 9 名 大阪 4 4 名 九州 7 名 計 1 5 0 名
	準 会 員	26,400 東京 2 0 名 九州 2 名 計 2 2 名
	賛助会員	800,000 4 0 口
入 会 金	5,000	
雑 収 入	1,000	
合 計	1,192,400	前期繰越金を加算する。

☆ 支 出 の 部

科 目	金 額	摘 要
会 議 費	理 事 会	145,000 旅費 新幹線 2 等、宿泊 @ 1,500 円
	小委員会	10,000 年鑑、その他
事 務 費	人 件 費	176,000 事務局長 3,000×12 事務局員 10,000×14
	交 通 費	5,000 事務局員定期代 1/2、その他
	消 耗 品	3,000
	通 信 費	40,000 会報 30 円×200×5 回 大阪、九州等 TEL 基本料の 1/2
	賃 借 料	165,750 25,500 円×13 ヶ月× 1/2
	渉 外 費	10,000 著作者団体協議会費、その他
	印 刷 費	50,000 名簿、その他
	光 熱 費	9,000 事務所ガス・水道代
	什器備品	70,000 戸棚、イス等(未払)の 1/2
雑 費	2,000	
事 業 費	会 報 費	200,000 会報 40,000×5 回
	調 査 費	10,000
	雑 費	3,000
配 布 金	0	期末理事会で決定
予 備 金	293,650	前期繰越金額を加算する
合 計	1,192,400	

徹底した部品組立方式

東京支部 12月 月例会

Y S 1 1 内装設計の川崎浩氏の報告

日 時 11月30日

場 所 都道府県会館

出席者 中西 中村 織田 田村 岩瀬 高橋 鎌田
鈴木(富) 大泉 渡辺(優) 佐藤(雅)
鈴木(栄) 渡辺(輝) 野口 峰尾 桃谷 高須
広田 伊藤(利) 竹内 内堀(代理) 榎田 三宅
坂田 水谷 狩野 富国KK 2名 会員外2名
大丸4名

東京支部12月 月例会は年末のため予定をくりあげ、大丸デザイン室の川崎浩氏をまねき、都道府県会館でY S 1 1のデザインの話をうかがいました。

航空機という新しい分野における、デザインの考え方は大変有益で、楽しい例会でした。以下話しの大要です。

×

×

大丸で航空機のデザインを取りあげたのは採算よりも航空機のインテリアを通じて、なにか新しいものがつかめるのではないかと考えたからです。設計から完成まで5年、日本の航空機工業の技術水準を引き上げ、国産化を計ろうとする国策にそつて、5人の武士といわれる0戦隼などの設計にあつた最高の技術者を集め、資本金55億円で、日本航空機製造株式会社を作りました。これがY Sの製作会社です。

1 航空機デザインに要求されることは次のようです。

① 機能=軽量・動的強度(胴体着陸)・耐火性・耐候性

厚み0.1mmが単位 重さgが単位

出入口ドアで0.3mm厚ジュラ板使用(0.1mm厚1㎡で270g)

② 経済=重量制限のため、カーテンランナーの外はほとんど新調した。ステンレスなども、薄物を作ることは非常に高いものになる。Y Sの場合150機しか作らないという小量生産でコスト高になる。そのためビス1本まで価格を検討し部品をへらして試作開

発費用の全体のバランスをコントロールして決めなければならなかつた。

- ① 意匠＝だれでも満足できる国際性と普遍性があること、そして又カーテン・椅子・カーベツトなどで、使用条件で変えられることが必要である。
- ② 工作＝☆航空機用の特殊な万国共通の規格がある。ネズでも特殊である。 ☆部品相互の互換性が必要。 ☆取付時間（整備時間）がみじかいこと。 ☆室内装備は2週間以内に完成すること。 ☆機体からくる寸法的制限。 ☆掃除がしやすいこと。〔Y Sでは内張りマド掛をベクロテープ（マジックテープ）で止めてある。〕

Y Sのデザインポリシーとしては、旅客機は実用時代に入つたというもののまだ料金は高く豪華な雰囲気が必要であり、特に戦後日本で作られた最初の旅客機でもあるので、色彩はひかえめにし材質感を主体とし、日本らしくするとともに形にあらわれるものは、直截明快な形とした。

今後のデザインの傾向としては、ソフト・トリーム（内張）よりハード・トリームに変わりつつある。窓や腰張りはジュラ板にプラスチックをコーティングした物を使っているものもある。これらはエンジンが強力になつたこと、メンテランスを重視することなどで、Y Sはセミハードである。

2 デザインの経過

① 契約の内容

機内に見える一切の室内を開発し図面化されることで契約した。但し椅子は運輸省の認可が必要で、Y Sの場合小糸製作所のものを利用し椅子張り製のみ設計した。

② デザイン料の算定

始めてのことであるのでいろいろ検討したが、外注方法に準じ計画図を含む一切の設計図をA 4 1枚当り8時間かかると計算し、デザイン料を算定した。カラスキームもこの方法によつた。結果的には協会の報酬規定と大体同額になつた。

③ 工事の範囲

大丸装工部が行つた。その内容は

- ☆実施設計図を書くこと。（A 4を5時間で計算）
- ☆部品（機内に取付けるものは一切部品）の製作。
- ☆取付用部品の調達。

1機4億7,000万円ですが内部は案外安いものです。

実際の業務は次のように進みました。

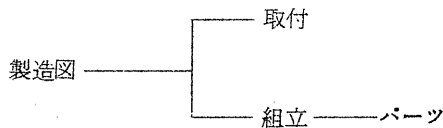
① 計画図（リクライエント ドローイング）

これは設計に必要な要求をまとめた図面（文も含む）で次のような内容です。全体及び各部分ごとにまとめたものです。

☆ユーザーからの要求（営業・整備・運航） ☆法的な安全性（運輸省の耐空基準）

☆デザインの要求（コストその他） ☆可能性

② 製造図（プロダクト ドローイング）



以上のような構成で胴体からビス1本に至るまで一切が親子関係で図示され、公差が明示されている。すべて部品であり、どこかに取りつけられる関係にある。

取付図は椅子張りなら釘の長さ、ピッチ、ハンマーの使い方を指示しており、組立図は部品の組立て方を示すもので寸法は記入されていない。寸法はすべて部品図で公差、強度、重量等を示し、組立図はその結果であり部品番号で記入されているだけである。

塗装など共通指示は仕様書によりすべての図面は下記のような番号になっている。

P - 82・123

計画図一室内・図面番号

主な仕事は次のようです。

1 客室一般

- a 天井内張 FRP板ウレタンホーム張りベルクロテープで装着。
- b 天井照明 サークライン20W1ヶ常夜灯5W1ヶを持つ器具13ヶ使用、三段切り替え式。
- c ハットラッグ 手摺 アルミ合金押出型材梨地仕上。
- d カーテン上部 レザー張り（強力スフ織物裏打ち）
- e 窓おおい FRP製（2窓）上部カーテンレール 下部は腰化粧縁にさしこむ。
- f 腰張り FRP板 レザー張り。

2 隔壁

- a ハニカム隔壁 ペーパーハニカム表面アルミ合金、客室側フシヨク模様つき、着色アルマイト加工、透明保護塗装。
- b 客席後方隔壁 アルミ合金管柱、パネル、表金箔裏裂張り。

3 カーテン エバ・ブリーツ加工、後方スナツプ止め、2枚合せ仕立。

- 4 床張 カーベツト(3列)ベルクロテープ止め、乗降口等ナイロン樹脂レザー、半硬質ウタンフォーム裏打ち
- 5 化粧室
- a 便器及び取付台=FRP製 バケツ式 蓋ステンレス製。
- b 洗面器=FRP製 アルミ合金 洗面台に取付 アルミ蒸着プラスチック製 鏡使用。
- 6 ギャレー
- a L型調理台=ステンレス1枚板、電解研磨仕上、ミールウオマ コールドフードボックス4ヶつき。

原宿新事務所で新年会

東京支部

出席者 荒川 長 原 広田 泉 井上 池辺 岩瀬 小林 狩野
鎌田 梶 香西 熊井 三宅 宮内 森谷 峰尾 中村 中井
西海(健) 野口 岡本 大橋 鈴木(栄) 白石 坂田
桜井 佐々木(達) 島田 竹内 田村 高須 渡辺(優)
渡部 渡辺(輝) 山口 有川 穂谷 及川 織田 佐藤(雅)
高橋 会員外1名 近藤忠商事KK KK千代田グラヒヤ印刷社

東京支部では1月新年会を企画していたが、会場の都合等で大変遅れ2月16日原宿の新事務所
で開かれました。当日は、普段あまりお見えにならない会員も参加され大変盛大でした。当日は
デンマークの家具、生活用品についてデンマーク大使から8mm映画をお借りし、上映致しました。

デザイン課改組に反対し

通産大臣に要望書提出

通産省・貿易振興局・デザイン課は行政改革にあつて縮小されることが明らかになつたので、
デザイン関係団体であるJIDA・クラフトマン・室内の三団体が集まり協議した結果、産業振興
上から見てデザイン行政が増々重要になつている時に縮小と解される改革を実施することは国

国家の長期の施策から見て間違いであり反対であるとの要旨の要望書を2月22日三団体の名でデザイン課を通じ通産大臣に提出した。

尚2月28日開かれた通産大臣の諮問機関であるデザイン奨励審議会（豊口理事が委員として参加）でもこのことが問題とされ討議された。

この結果、デザイン行政を軽視するものではなく、課の定員など行政上やむをえず検査課と合併するものであることが確認され、新年度から検査デザイン課となる予定である。

デザイン団体の協議会を

JIDA・クラフト・室内てよび掛ける

2月7日デザイン課改組問題を討議するため事務局に集まった。JIDA理事長（小池岩太郎）クラフトマン（佐藤潤四郎）・室内（狩野雄一）の三団体の代表7名は著作権問題・海外との交流、行政諸施策など相互に共通する問題を多数かかえているので、デザイン関係団体に恒常的な協議会を設立する呼び掛けを、建築家協会、日宣美、パッケージデザイン等の諸団体に働き掛けることになった。

I C S I D の 会 議 報 告

1 1 月 東 京 支 部 例 会

日 時 1 1 月 1 0 日

場 所 都道府県会館

参加者 岡本 浅利 渡部 岩瀬 森谷 高橋 織田 原 小菅
鈴木(栄) 香西 鹿毛 佐藤(守) 鈴木(富)
村尾 白石 田村 中村 渡辺(優) 三宅 村中
中井 坂田 泉 佐藤(雅) 大橋 土屋 大泉 豊口
水谷(代理) 千代田グラヒヤ印刷社 会員外3名

東京支部11月例会はウインのI C S I D総会に参加した豊口克平、坂田種男両氏の帰国

東京支部11月例会は、ウインのI C S I D総会に参加した豊口克平、坂田種男両氏の帰国報告を主体に開かれました。

I C S I Dは、世界22ヶ国、34協会2,500人の工業デザイナーの世界的な組織で、新たに6ヶ国が加入しました。日本ではJ I D A、産工試が加入しています。豊口氏の報告は会議が“会則の1部変更、国際工業デザイナーの業務規定”等を決議しましたが、この規定は、工業デザイナーの職業的モラルと権利についてきびしく規定したもので、特に国際コンペについては、公開競技、指名競技とも審査員に対し主催国以外の者が多数参加する規定などがあり、J I D Aとしても色々研究しなければならない問題を含んでいます。J I D Aは又6年後の総会を日本で開催する提案も行い、役員会に附託されました。坂田氏の報告は、日本室内設計家協会の加入について役員の方々の意向を打審してみましたが、意見がまちまちであり、J I D A、クラフト、室内の3団体が1本になり加入することについては、問題ないとのことでした。

ウイス工業デザイン協会の主催で開かれた「デザインと公共性」の展覧会ではトーネットの古い曲木椅子があり、大変参考になる良い物だったとのことでした。坂田氏はこのほかコペンハーゲンの「建築の工業化の会議」にも参加され“建築と材料、モデル、建築家と建築主、用語などの問題について討議され各国の量産住宅の映画(日本は住宅公団)などを見てこられました。

会 員 の 近 況

狩野雄一 (千葉大学)

10月11日NHK(教育テレビ)家庭科教室出演「新しい家具」

吉永 淳 (産工試)

10月5日～6日第10回高知県家具建具展の審査の為出張

藤原庸弘 (三重大学)

和菓子の店設計中 木造住宅設計中 アトリエ及び住宅完成 2階建木造住宅設計中

近商グリン改造設計完了 25坪住宅設計中 喫茶店ボン設計完了

竹内 篤 (フリー)

日本産業巡航見本市船展示場の設計、監理を終り、船は10月6日晴海を出発しました。

(アートディレクターは、佐々木達三さんです。) ベルギーデザイン展示場(ジャパンデザインハウス)設計監理。第6次巡航見本市船が、帰国するので見本市会場工事確認の為

3月1日～3日頃まで神戸に出張。

中村圭介 (フリー)

山本邸内装設計監理

豊口克平 (フリー)

著書「デザイン戦略」ダイヤモンド社 9月発刊

田中聡行 (フリー)

城南信用金庫世田谷支店家具設計完了

城南信用金庫高円寺支店 ✕ 着手

池辺武彦 (東横)

2級建築士試験合格

下記へ転居致しました

所沢市下新井 こぶし団地565

西海健彦 (フリー)

古市ビル洋酒ショールームデザイン(飯倉)

穴山邦夫 (日建設計)

経団連ビル、パレスサイドビル設計進行中

森谷延周 (豊口デザイン研究所)

機械振興会館新築家具工事設計及び監理中(建築設計は梓建築事務所)

この度下記へ転居いたしました。

世田谷区烏山町1307-1 烏山北住宅10-405号

桜井定雄 (日本室内設備工業)

自宅電話開通 TEL 584-3065

鈴木栄二 (睦屋)

笠間稻荷神社 内装工事完了

中井太一郎 (フリー)

ガム島基地 D・H・29戸家具設計終了

土屋晃一 (静岡工業試験場)

JETROのデザイン講演会にあちこちひきまわされています。

大和勝太郎 (フリー)

会員名簿中現住所が違っていますので、御訂正下さい。

渋谷区鉢山町10 雅(ミヤビ)荘内 TEL 461-5418

三宅正郎 (フリー)

2月7日～10日まで日本中小企業指導センター主催による、診断員研習講習会に商店建築設計に関する講義担当。

清水 武 (清水建設)

お正月早々下記に転居致しましたので、よろしく。

世田谷区祖師ヶ谷1-703-27 TEL 309-3955

渡辺輝男 (東京家具センター)

設計部員を募集しております。実務経験1年以上の方、もし協会々員諸氏の中で、御推薦下されば幸いです。どなたか御紹介方斡旋して下さい。

東京家具センター設計室 TEL 841-5265(直)

梶原敏生 (三越製作所)

日本ビルディング内(レストラン、シベール、むろまち)

伊藤利一 (コスガ)

第3回コスガコンペ最終審査用試作を進めております。

片桐秀三 (日建設計)

9月に誠工舎を円満退社し、10月より日建設計工務に勤務することになりました。しばらく大阪(本社)勤務ですが、東京勤務になる予定です。

大阪市阿倍野区三明町1-98 坂崎龍一方

武笠七郎 (フリー)

電話局番変更のお知らせ 0488-82-7694

鈴木 暁 (創建社)

自宅に電話が入りましたので、よろしく。 TEL 734-8486

広田長治郎 (フリー)

山口勇次郎 (フリー)

4月1日より事務所住所が町名変更で下記のように変わります。

渋谷区渋谷1丁目1番3号 青山ビル

村松洋雄 (生和木材工業)

平和相互銀行富士高原荘の室内設計、施工、監理。

成元邸家具設計製作監理

山中邸造作家具設計製作監理

山崎パン松戸工場及び寮家具設計

田町ビル1部インテリア設計

仙台え鶴岡市病院見積り打合せの為出張。

昨年KK新和総合デザイン研究所を退社し、生和木材工業KK設計部に勤務。

TEL 363-8622

有川勲一 (桂工務店)

栗田邸、小山アパート、コヒーサン、クリタスタジオ、金平寿司完了。

喫茶木屋(日本ビルディング内)設計中。

梶谷通男 (緑屋)

2月16日より下記に移りました。

世田谷区下馬町1—147 横山方 TEL 422—4773

長沢精一郎 (森京介建築設計事務所)

下記に移転いたしました。

世田谷区成城町836

野水ユキコ (フリー)

会社勤務をよして、自宅で仕事をしております。

川崎 浩 (大丸)

11月13日関西意匠学会にて講演。

テーマ 国産中型旅客機、YS11のインテリアデザインについて。

矢留富三 (石川島播磨)

会社の所属が変わり、現住所も町名変更になりました。

勤務先 石川島播磨重工業KK 相生第一工場生産管理部購買課。

所在地は従来通りです。

現住所 兵庫県相生市大谷町3—16 TEL 相生—1475

香港でインテリア・デザイナーを求む

設計、見積り、現場監理が出来る人 1名 年令制限なし

契約は2～3年 給料は香港ドルで1万ドル(月給)

住宅費、食費は会社負担。 社長は日本人

くわしくお知りになりたい方は事務局まで御連絡下さい。

直通電話が入りましたので 403—6647 へどうぞ。

新 入 会 員 御 紹 介

正 会 員 (東京) ^{しま} ^だ ^{しげ} ^{よし}
島 田 重 義 (大正4年10月6日生)

株式会社総合デザイン研究所の代表取締役として、長いデザイン活動の経歴が認められ入会された。昭和11年に東京高等工芸学校、木材工芸科を卒業してから都立工芸高等学校の教職に立たれ、現在も定時制で後輩の教育指導にあたられている。

会員の中にも島田氏の教えを受けたものもおります。

又39年までは西武百貨店家具装飾課の嘱託もされておられた。推薦者は、中井太郎・桜井定雄の両正会員で、「温厚な人柄が堅実な設計に見られ、特にクラシックも手がける意欲には敬意を表し、もつと早く入会していただきたかつた」といつている。

作品としては品川プリンスホテル・赤坂プリンスホテルの家具及び内装が提出された。

正 会 員 (東京) ^{たま} ^き ^{ゆう} ^{いち}
玉 置 勇 一 (大正10年8月2日生)

昭和14年名古屋市工芸学校・木材工芸科を卒業後愛知航空機に入社。戦後は愛知株式会社に入社して、現在開発担当の常務取締役として、みずからデザインに当っている。

作品としては愛知株式会社製作の折畳いす、食堂椅子、劇場椅子など通産商Gマーク選定品3点を含む5点で、推薦者の山口勇次郎・鈴木富久治両氏は『デザイン担当常務として多くのGマーク商品を生みだし、デザインと経営との関連付けを行っている珍しい人物であり、デザイナーとしても十分に推薦に価する』とのことである。

正 会 員 (大阪) ^{なみ} ^{かわ} ^{ひろ} ^し
並 川 拓 史 (昭和9年2月11日生)

大阪府立西野田工業高校木材工芸科を27年3月に卒業し、旭木工所設計部、そごう大阪店設計部を経て現在並川拓史デザイン研究所を自営し古川工業のコンサルタントも兼ねている。

作品としては、天童コンペ(テーブル)、コスガコンペの(肱掛椅子)入選作品を含む家具5点で、推薦者は、村尾栄・依田勇夫の両氏で『研究心の極めて旺盛な努力家で素直な作品から推しても人間の程が良く見え将来が期待される』と推薦されている。

編 集 後 記

昨年11月より休刊して申し訳ありません。事務所の新設のため、予想以上の財政支出があり、未払金の増加を防ぐために、やむを得ず、会報を休刊しました。然し今般の理事会では、会報は協会の活動の「かなめ」であることが確認され、23号の発行になりました。諸物価、ことに国鉄、通信費の値上りは会の財政に大きくひびくわけですが、今年度は、なるべく諸経費を切りつめても、会報の隔月発行を確保したいと思います。

編集内容も、今後は会員に参加していただき、改善したいと思います。大阪支部なども、経過報告によりますと、ずい分活潑に活動されています。その近況も、ぜひお知らせ下さい。会報は全会員のものでありますから、なにとぞよろしく御協力下さい。

(中村)

日本室内設計家協会・東京都渋谷区神宮前1-14-34 森ビル 403-6647
振替 東京76389